



福音讃美歌ジャーナル

福音讃美歌協会

新しい歌を
主に歌え

■巻頭言■「聖なる替え歌の試み」

霞ヶ関キリスト教会牧師 池田勇人

「うるはしのタベに／旅人よなどかは／冬枯れし木陰に／涙してたたずむ
／君みずやみ空に／かがやけるかの星／くすしくもくすしくも／かがやける
かの星」

これは著名な讃美歌作者の、最初の創作讃美歌でした。曲は讃美歌496
「うるはしの白百合」（由木康『讃美の詩と音楽』教文館）。これがどう
して讃美歌なんだと思われる方がいらっしゃるかもしれませんが、多分こ
の後、2-3節があったのかもしれませんが。由木康は中学3年のクリスマス祝
会で、この自作の讃美歌を独唱したとのことでした。

これより15年ほど遡ると、1881（明治14）年、1884年の『小学唱歌』刊
行があり、伊澤修二に協力したL・W・メーソンの悲願が実ってゆきます。讃
美歌の旋律に合わせて、全国の子供たちが唱歌を口ずさんでいる・・・想
像しただけで興奮してきませんか？

初編では「見わたせば」「春のやよい」「わが日の本」「うつくしき」
「蛍」「思ひいずれば」「隅田川」、第2編「年たつ今朝」「さか行くみ
代」、第3編「菊」「高嶺」「四の時」「花見」等々が、讃美歌を旋律と
する唱歌でした。

さらにキリスト教禁令の高札が、まだ撤去されていない1862（文久2）
年頃、日本で最初の聖なる替え歌がなされました。勝海舟による『思いや
つれし君』（オランダ語詩篇讃美歌「ローフ・デン・ヘール」）です。

「なにすとして、やつれし君ぞ／哀れその、思ひたわみて／いたずらに、我
が世を経めや／／あまのはら、ふりさけ見つつ／あらがねの、土踏みたて
て／ますら雄の、心ふりおこし／／清き名を、天に響かし／かぐはしき、
道のいさをを／天つちの、いや遠ながく／／聞く人の、鏡にせむと／我は
もよ、思たはまず／おほらかに、此の世を経しと／おもやつれとも」

これは詩篇102～103篇の自由訳ですが、西郷隆盛と直談判して江戸開城
を成功させた、勇気ある勝の心底にあった思いかもしれません。

次のものは川越キングス・ガーデンが開園した時に、皆で歌えるもの
として私が作詞したものです。

「あした浜辺で 祈りせば／主イエスの恵み しのばるる／花の色よ 鳥
の声よ／友の笑みも みことばにも／／ゆうべ窓辺を ながむれば／み神
の愛ぞ せまりくる／沈む夕陽よ 光る星よ／母の胸も 子らの胸も」

（『浜辺の歌』のメロディで）

「讃美歌の作詞など自分にはとても・・・」と思われる方、替え歌
に挑戦してみませんか。

■□■福音讃美歌協会に加えられて■□■

イムマヌエル綜合伝道団 矢木良雄

去る7月の定期総会において、私共「イムマヌエル綜合伝道団」の加盟が認められ、正会員としてお仲間に入れていただくことになりました。よろしくお願いいたします。

私共はホーリネス系の教団として戦後に発足し、今年63周年を迎えました。讃美歌に関しては、独自の歩みをしてまいりました。1955年に『リバイバル聖歌』と旧『讃美歌』を併せ、自前の讃美歌を加えて『インマヌエル讃美歌』を発行しました。その後の改訂を経ながら、今日まで公用讃美歌集として使用しております。また、2001年には比較的新しい曲を集めた讃美歌集『ひむなる』を発行しました。

この間、文語主体の『インマヌエル讃美歌』を大改訂する課題は、幾度も取り上げられながら具体化せずに来ました。本格的な讃美歌集の発行は一教団で取り組むにはあまりに大きな仕事です。

今回、福音讃美歌協会のお話をうかがい、打開の道としてはこれ以外にはないのではないかと判断し、正式加盟へと大きく舵を切りました。乏しいながらも、独自の讃美歌集をいくつか作ってまいりましたので、多少なりともお役に立てばと願っております。

■□■第3回・福音讃美歌協会定期総会（2008/7/28）報告■□■

その1 イムマヌエル綜合伝道団が福音讃美歌協会に正会員として加盟しました。

その2 福音讃美歌協会が日本福音同盟（JEA）に加盟申請することになりました。

その3 事業計画が承認されました

- ・2009年9月に札幌で開催される第5回日本伝道会議に合わせて、『サンプル歌集』（仮称）を発行します。
- ・2009年にブックレット「礼拝における讃美—その役割と機能」を発行します。
- ・その他



☆事務主事紹介☆

財務担当理事 鎌田雅人

事務主事の小林由貴子姉をインタビュー形式で紹介させていただきます。

1. いつ頃、キリスト者になったのですか：1975年5月、教会学校のピクニックで4才になる娘が迷子になった事件によって教会に導かれ、その年のクリスマスにキリスト教朝顔教会の（故）井出定治師によって洗礼を授けられました。
2. 現在の教会：日本福音キリスト教会連合 千歳烏山光の子聖書教会（高田文彦牧師）
3. 教会での奉仕：手話賛美、求道者との聖書の学び。

4. 趣味：アルパ（中南米のハープ）。
5. 好きな聖句・讃美歌：ペリピ4章6～7節、聖歌475番「主イエスのみそばに」
6. 主事に導かれた経緯：当時後任を探していた植木師（当時の理事）に誘われて。
7. 御家族：御主人、2人の娘さん御夫妻、御本人、計6名全員キリスト者で、お孫さん3人も一緒に同じ教会にて礼拝を守っています。

■財務担当理事から一言・・・2007年7月以来忠実に奉仕をして頂き、協会の働きも様々な面において軌道にのってきました。主事の労苦なくしてこの協会の働きは前進できないといっても良いでしょう。今後の主事の働きのために更なるお祈りをよろしくお願い致します。

2006年6月16日、最終段階であるCD録音をもって「ミエン語讃美歌改訂プロジェクト」が完了しました。8年に渡る多くの方々の祈り、ボランティア伴奏者の協力をいただいての完成でした。さまざまな困難に直面しつつ、また多岐にわたる伝道牧会の働きと平行して行ったゆえの遅れもありましたが、完成を見ることができ、神様に感謝しています。すべての栄光を主がお受けくださいますように。

『ミエン語讃美歌改訂物語』を、今回から数回にわたってお伝えしたいと思います。

◆◆この始まり◆◆

1998年6月、タイのミエン族で奉仕するベテラン宣教師、英国人のベヴィントン師夫妻がアメリカ西海岸で行われたミエン族教会の聖会に参加。そこで「ミエン語讃美歌改訂委員会」が設置され、タイ国ミエン教会とアメリカ・ミエン教会の讃美歌を統一することが決められました。

理由は、(1) アメリカのミエン族クリスチャンとタイのミエン族クリスチャンの交流が盛んになり、同席の場で礼拝する機会が増え、両国の讃美歌の違いが不都合になってきた、(2) 両国で新しい曲が作られ互いに取り入れたい、(3) 現在使っている讃美歌集が間もなく絶版になる、(4) ある国でミエン族が集団で信仰を持ち始め讃美歌の需要が高まった、(5) 訂正の必要な箇所が多数見つかった。

◆◆ミエン語讃美歌改訂事業の背景◆◆

「ミエン」族は、正式には「イウ-ミエン」(Iu-Mien)と言います。タイへの移住は、過去100年くらいです。現在は、中国南部に約70~90万人、ベトナムに約474,000人、ラオスに約2万人、タイに約46,000人、アメリカに約23,000人、フランスに約2千人います。

ミエン語は、単音節が個別の意味を表す孤立語であり、音調言語(後述)です。

また、ミエン語のセンテンス・レベルの語順は、英語、中国語、タイ語と同じ「主語」+「動詞」+「目的語」(SVO)です。しかし日本語、中国語、

タイ語の特色である「話題化(topicalization)」という現象、つまり「目的語」+「主語」+「動詞」という倒置が行われる傾向が強く、この点では英語と大きく違います。

句レベルの語順は、「私」[所有者]+「の」[所有格助詞]+「本」[ヘッド名詞]などの例があり、部分的には日本語や中国語の語順と同じです。

単音節が意味を担う、音調言語である、語順によりセンテンス内の情報量配分が変わる、などの特色が翻訳や翻訳の訂正作業に大きな影響を与えます。

◆◆作業手順◆◆

讃美歌の統一のためには、違いを知る必要があります。まず①「タイ国版讃美歌集」にあって「アメリカ版讃美歌集」に無い曲、またその逆を探し、②同じ曲で番号が違うものを探し、③同じ曲で歌詞の異なる箇所を探す。④違いが分かったら、次に比較表と訂正案を作る。

訂正が必要な場合とは、(1) 声調とメロディーが一致していないため、言葉の意味が変わってしまう場合、(2) 音節数の多少により、字余り・字足らずがある場合、(3) 文法的に間違っていたり、語順が他言語(翻訳者の母語)からの影響を受けている場合、(4) 選択された語彙がミエン語としてふさわしくない場合、(5) 教理的に歌詞を修正する必要がある場合などです。

(1)の「声調(tone)」に関しては説明が必要かもしれませんが。ミエン語は中国語、タイ語と同じように音声の高低パターンで意味を区別する「音調言語」と呼ばれることばです。この声の高低パターンを「声調」といい、ミエン語では8声あります。

日本語で例えて言えば、「神は我が力」と意味したいところが、声の高低の違いで「髪」や「紙」が「我が力」に聞こえてしまうのと似ています。

ですから、訂正の必要な箇所を発見するためには全ての曲の全ての節を実際に声に出して歌って見なければならぬのです。(続く)

この文章は、ニュースレターに掲載された記事に、多少の手を加えたものです。

◆新しい讃美歌の試み—その2◆◇

下北沢聖書教会員 土井康司

作詞：中山信児

作曲：大島章義

主のよきあをきたすのさちえいこよわのたまにききもとどしないたもく主
 身ふのよしありいでをきす子主ののさちえいこよわのたまにききもとどしないたもく主
 らやみのちかおははたらいているけいどあ
 のあいつになおとわれやはすなぎせでださるあ
 いせつになおとわれやはすなぎせでださるあ
 なたののこことこぼろには生かされちわをたしかはこ
 なたのののこことこぼろには生かされちわをたしかはこ
 のと世にかをが照やくちいさなきひかくりでする
 と字にに死なれすたあがなひをひかたりでする

今回は、できたばかりの讃美歌をご紹介します。作曲の大島章義さんは愛知県在住の音楽家で、福音讃美歌協会の協力者募集に応じてくださいました。作詞の中山信児先生は神奈川県で牧師をしておられます。

この曲には2つの特徴があります。ひとつは、この曲が福音讃美歌協会の働きを通して生まれたということです。「歌詞は作れるけれど曲は作れない」とか「曲は作れるけれど歌詞は作れない」という人は多いのではないのでしょうか。作詞と作曲という2つの賜物がそろわなければ歌は生まれ

ません。大島兄は歌詞は作られませんが、曲とその創作のきっかけとなった体験の証しを提供してくださいました。讃美歌委員会の席でこの曲を知った中山先生は、その証しを念頭に置いて歌詞を作られました。こうして2つの賜物が出会い、新しい讃美歌が生まれました。福音讃美歌協会が今後もこのような出会いの場として用いられることを願っています。

もうひとつの特徴は、この曲が現代の社会を見据えて作られているということです。大島兄はミャンマーのキリスト教孤児院に義援金を渡しに行くという体験をされ、そこで「主の十字架によって行き場の無い者に居場所を与えていることに感銘を受け、賛美をしたい」と思い、帰国してこの曲を作られました。中山先生はミャンマーの現実に触発されつつ、日本の現実を思いながら作詞をされました。現代社会に生きる者がその現実と向き合って作った讃美歌は余り多くありません。そういう意味でもこの曲には大きな意義があると思います。

なお、作詞者によると第1節の1段目については「公同礼拝で使用することを考え、誰もが心を合わせて歌える歌詞を考えているところ」とのことです。より良いものが出来るようお祈りください。また、ぜひ皆さんも、このような讃美歌創作の働きにご協力ください。

BOOK REVIEW☆



『塵のなかに素足で—ある賛美歌詩人の世界』

ブライアン・レン著、横坂康彦訳 日本キリスト教団出版局 2004年

浜田山キリスト教会員 齊藤一誠

「賛美歌詩人は、個人の寄せ集めである大衆に語りかけるのではなく、『信仰共同体のために』その『共同体を代表して』語りかけるのである」という指摘に、あたらしい賛美歌を生みだそうとする者が直面する困難の核心を見る。

そもそも新しい詩を生み出すこと自体が決して容易なことではない。詩想を得ることはほとんど奇跡的なこと。韻律を整えて言葉を詩として成立させるまでには途方もない労苦がある。さらに新たな旋律を抽出し、詩となった言葉をそれと一体化させるなどという技は、いわば超絶の領域に属する。

しかも、すべてが首尾よく成し遂げられたとして、それはあくまで個人の営為。完璧な作品は、だからといって賛美歌としての成功が保証されたわけではない。新しい賛美歌が成功するかどうか、それは一人の人間による創作が個人を超えて共同体に受け入れられ、「信仰共同体を代表して語りかける」ものとなり得るかどうか。賛美歌を創作する者にとっての最大の不安と困難が、おそらくここにある。

本書は、自らを「賛美歌詩人」と呼んでその困難を担いつつ歩むブライアン・レンが、自らの信仰人生を開陳し、創作の舞台裏を明かしつつ、時に『讃美歌21』に収められた自作を例示しながら、演奏にあたっての具体的な注意まで含めて、語り尽した一冊である。主題は一つ。だが話題は多岐に渡る。それら豊かな断片のひとつひとつは、教訓として人を励ますだけでなく、様々な読者を、それぞれの関心に応じて、必要な思索に誘う。

賛美歌を新たに創作するという困難の重さに比して、レンの口調には軽やかさがある。それはおそらく、自ら「賛美歌詩人」としての賜物を確信し、それが用いられることに言い知れぬ喜びを味わっているから。創作するということの喜び、他ならぬ賛美歌を自らが生み出すということの喜び、そしてそのような働きに召されているという確信がもたらす喜び。その喜びは本書の様々な話題を貫いて圧倒的だ。

しかし、その「賛美歌詩人」がひとたび賛美を歌い出す時、その足は「塵」の上にある。「『塵』とは、世俗的な現実に縛られた、汚くて居心地の悪い人間の経験」、「その塵の中に立つとき、私たちの存在をあたかもそれ以上であるかのように見せかけることは無意味になる」。そして「この塵の中から歌う時にこそ、祈りには誠意が加わり、感謝も真実のものとなり、賛美も心からのものとなる」。

足下の塵から伝わるひんやりとした感触が、創作する個人の情熱を、信仰共同体の信仰の静けさに向けて、ゆっくりと冷ましている。

❖ INFORMATION ❖

🎵 第8回 福音讃美歌協会 教会音楽セミナー

「コンテンポラリーな礼拝と讃美」

■入場無料■（席上献金有り）

■日時：2008年11月8日（土）14:00-16:00

■場所：シオン・キリスト教団 蒲田教会

JR/東急 蒲田駅下車、徒歩2分。お車での来場はご遠慮ください。

■歌とお話し：塩谷達也、コパン（堀井祥子+堀井栄治）

🎵 『福音讃美歌ジャーナル』投稿募集

福音讃美歌ジャーナルへの投稿を募集いたします。福音讃美歌協会へのご意見ご希望、讃美についての思い、教会での取り組みなどをお寄せください。

原稿は600字以内。電子メールにテキスト書類添付で（info@jeacs.org）までお送りください。メールのタイトルは「ジャーナル投稿」とし、本文に住所、氏名、電話番号、所属教会を明記してください。次号（2009年5月発行予定）掲載分は、2009年3月末日締切です。掲載誌の発送をもって採否の発表に代えさせていただきます。

🎵 理事、讃美歌委員をお招きください

福音讃美歌協会の理事、讃美歌委員を、教会の諸集会にお招きください。讃美についてのみことばの学び、実際の研修や講習などに、ぜひお役立てください。また、福音讃美歌協会の働きについて紹介と報告をさせていただければ感謝です。

例えば、
＊礼拝メッセージに ＊祈祷会や諸集会に ＊讃美についての学びに
＊音楽講習会、セミナーに ＊近隣教会の合同研修会に

- ・奉仕謝礼は、全て福音讃美歌協会への献金として受け取らせていただきます。
- ・日程と内容について、ご希望をお知らせください。当方で奉仕者を調整の上、改めてご連絡させていただきます。但し、日程、内容によっては、ご希望に添えない場合がありますことを、ご了承ください。

■お問い合わせ：中山信児（TEL&FAX 044-977-8053、電子メール info@jeacs.org）

🎵 讃美歌委員会・協力者募集

福音讃美歌協会の事業の一つであります讃美歌集編纂につきまして、作詞・翻訳・作曲・編曲・楽譜作成等でご協力いただける方を募集しております。

詳しくは、讃美歌委員長の井上義（info@jeacs.org）までお問い合わせください。

🎵 福音讃美歌協会・会員募集

◇会員の種別は、以下の三種類です。

正会員（教会・教団・教派等）、準会員（超教派団体・グループ等）、賛助会員（趣旨に賛同し支援して下さる教会、個人等）

◇賛助会員のお申し込みは、入会申込書をご請求いただき、必要事項をご記入の上、郵送またはFAXでお送りください。承認後、年会費のお振込みにより入会が完了致します。

◇正会員、準会員のお申し込みにつきましては、協会へ直接お問い合わせください。

＊会計報告＊

■収入の部■

科 目	2008年度予算案	2008年 4-9月 実績
会員負担金	1,210,000	645,000
正会員	750,000	500,000
準会員	60,000	0
賛助会員	400,000	145,000
自由献金	230,000	203,800
その他	0	273
当年度収入合計（A）	1,440,000	849,073
前年度繰越金	700,827	700,827
収入合計（B）	2,140,827	1,549,900

■支出の部■

科 目	2008年度予算案	2008年 4-9月 実績
理事会費	67,000	23,630
委員会費	160,000	97,445
人件費	240,000	120,000
事務費	90,000	22,047
ジャーナル発行費	310,000	149,280
カンファレンス開催費	220,000	87,180
総会開催費	40,000	20,206
予備費	100,000	0
積立基金	200,000	200,000
当年度支出合計（C）	1,427,000	719,788
当年度収支差額（A）-（C）	13,000	129,285
繰越額／残高（B）-（C）	713,827	830,112

【賛助会費納入者】（2008年 4-9月）

世田谷中央教会、菅生キリスト教会、鶴ヶ島聖書教会、上作延キリスト教会、栄福音キリスト教会（5教会）

石川岩夫、稲垣博史・緋紗子、刑部照美、高橋和江、安西仁美、中山信児、山田洋一、斎藤眞木子、竹中久三、竹中節子（11個人）

【献金者】（2008年 4-9月）

こどもの国キリスト教会、武蔵台キリスト福音教会、川越聖書教会、久居聖書教会、大塚和枝、匿名、教会訪問献金：菅生キリスト教会（6月）、川越聖書教会（9月）

お名前の掲載を希望されない場合は、通信欄に匿名希望とお書きくださるか、メール（info@jeacs.org）で、その旨をお知らせください。

ハシルやほうや by yukinko



◇財務からの感謝と献金のお願い◇

「福音讃美歌協会」の働きのために、いつもお祈りと尊い献金を心から感謝いたします。いよいよ「サンプル歌集（仮称）」が、2009年9月、日本伝道会議頃に発行予定です。その実現のためにも、さらなる必要が天の倉の支配者によって満たされる必要があります。

是非とも、皆様のさらなるお祈りと献金の御協力を心からお願い申し上げます。（自由献金、会員献金、教会献金、いずれも感謝です。）

財務担当理事 鎌田雅人

◆郵便振替口座◆

番号 00220-1-95127
名称 福音讃美歌協会

◆郵便貯金口座（ばるる）◆

番号 10500-82654721
名称 福音讃美歌協会

◆銀行口座◆

みずほ銀行 ユーカリが丘支店
普通預金 口座番号 1604668
名称 福音讃美歌協会

福音讃美歌協会 JEACS

Japan Evangelical Association for Congregational Singing

〒154-0015 東京都世田谷区桜新町 1-14-22

世田谷中央教会内

TEL 03-3428-2388 FAX 03-3428-2380

ホームページ <http://jeacs.org/> メール info@jeacs.org

From Editor 編集後記

今回、巻頭言をお書きくださったのは、福音讃美歌協会の前理事 池田勇人師です。「替え歌」へのお誘いに応える方が多く起こされることを期待しています。

7月の総会で新たに加盟された イムマヌエル綜合伝道団からは、矢木良雄師がご挨拶をお寄せくださいました。感謝いたします。

遠方から讃美歌改訂についてレポートしてくださったのは、有澤達朗・たまみ師ご夫妻です。お二人のお働きのためにも是非お祈りください。

土井康司兄は、讃美歌委員会の副委員長として、この働きになくはならない存在です。今回は、大島章義兄の労作を取り上げてくださいました。

齊藤一誠兄も讃美歌委員の大切なメンバーです。レンの信仰は私たちのそれと異なりますが、讃美歌作詞についての実践的なガイドとして無視できない一冊です。

このように多くの方の協力と祈りと努力があって働きが進んでいることを感謝いたします。ここで思うのは、柿が美味しい干し柿になるのは、ひとえに天の恵みであるということだと思います。私たちの働きも、そのようでありたいと思います。干し柿を差し出すように、天の恵みである働きの実を皆様に差し出すことができるなら、これに勝る喜びはありません。（な）